

第三十一日目

師 範：ヨーロッパでは、ローマ・カトリックという教会を頂点にしたキリスト教が強い影響をあたえていました。



しかしドイツのルターは、本当の信仰は個人の心の中にあるものであって、教会の行事に欠かさず出席したり寄付金を納めることではないのではないかと訴えました。

聖書すら一般の民衆には読めないようなものでは意味がないということから、原典にちかいものをわかりやすいドイツ語に訳して、民衆のものにしました。権威や儀式よりも個人の信仰を大切にしたルターの主張は、宗教改革とよばれ、プロテスタントの始まりとなりました。

1517年 ルターが宗教改革をはじめる。

この口火を切った年を覚えましょう。

コン太：なかなかむずかしいですね



「これ以後一筋縄でいかぬルター」

「いご」は15, 「ひと(筋)」は1, 「な(わ)」は7, これで1517年。

師 範：これ以後のこれは、ルターが教会の扉に教会の指示に疑問を投げかける文書を張り出したことを表します。

教会を面と向かって批判することや疑うことは許されない時代だったのです。

そういう中で民衆の前で公然と批判したのです。

一筋縄ではいかないルターのき然たる姿勢がありました。

そのふん囲気を生かしていますね。

ペン太：まいりました。



それほどに深いものとは知りませんでした。

コン太君、よく勉強しているね。